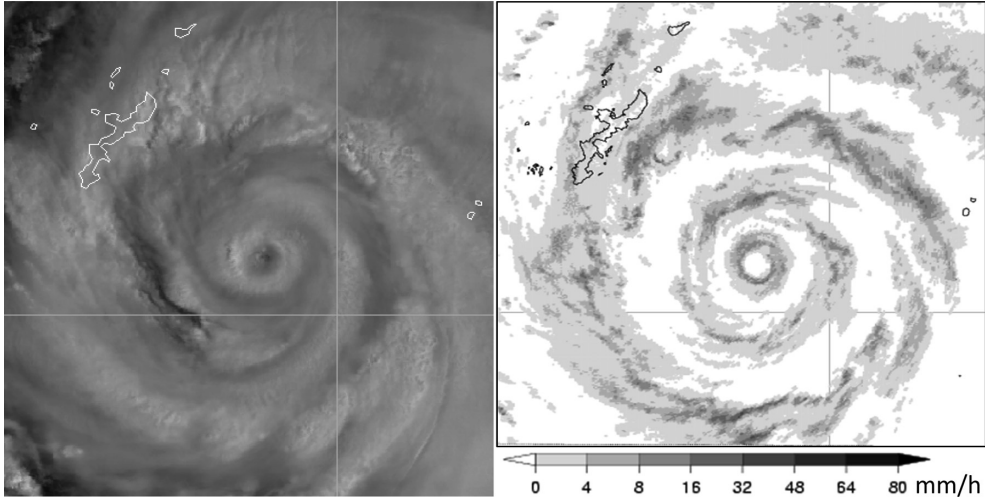


今月のひまわり画像—2012年8月

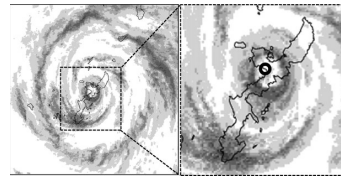
三重眼が形成された台風第15号



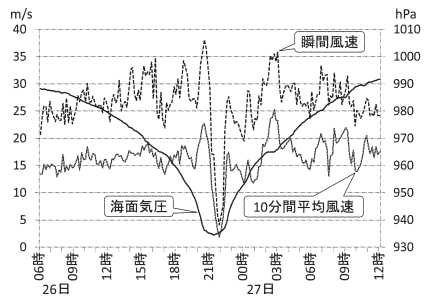
第1図 2012年8月26日10時30分（日本時間）の沖縄本島付近の可視画像（左図）とレーダーエコー降水強度（右図）。

2012年8月26日、大型で非常に強い台風第15号が沖縄本島付近を通過した。この台風について、気象庁は「沖縄本島に接近する台風としては最大級になる恐れがある」として、数日前から厳重な警戒を呼び掛けていた。第1図左は26日10時30分（日本時間）の沖縄本島付近の可視画像で、同日09～12時の第15号の中心気圧は925hPa、最大風速は45m/sであった。第15号は沖縄本島に接近するにつれてCDO（台風中心付近の雲頂の滑らかな円形の積乱雲域）が狭まった。レーダーエコー降水強度（第1図右）を見てもわかるように、同時刻、台風を中心付近には非常に小さなリング状のアイウォールが形成され、中心を取り巻くエコーが三重眼のようになっていた。同日21時頃に第15号は沖縄県名護市付近を通過し、名護特別地域気象観測所（第2図中の記号○の中心）では21時18分に海面気圧934.3hPaを観測した。この値は同観測所においては1973年の統計開始以降2番目に低い記録であった。

名護では最も内側のアイウォール通過時（26日21時前）と外側のウォール通過時（27日03時前）に風が強まった（第3図）が、今回の最大風速と最大瞬間風速の観測値は統計上10位以内に入らなかった。第15号は小さなアイウォールが存在したが、それを取り巻くウォールとの間に隙間が目立っていた。このため、アイウォールの外側のスパイラルバンドが密集した台風



第2図 26日21時20分のレーダーエコー降水強度（右図は左図の破線内の拡大、図中の記号○については本文参照）。



第3図 名護特別地域気象観測所における26日06時～27日12時の海面気圧、10分間平均風速、瞬間風速の時系列変化図。

で見られるような顕著な風の強まりは起きにくかったと考えられる。

（気象庁予報部予報課航空予報室 原 基）